



第57回 卒業証書授与式

式 辞

校長 下山 敏 晴

長く厳しかった冬も終わりを迎え、三寒四温を繰り返し、少しずつではありますが、季節は春に向かっていきます。波乱の3年間を乗り越え、今日こうして無事に卒業式を迎えた、第57期卒業生290名の皆さん、卒業おめでとうございます。証書授与では、3年間の中学校生活の、そして、9年間の義務教育にけじめをつけるべく、元気な返事、そして堂々とした態度で卒業証書を受け取りました。今皆さんの心の中には、この3年間の数々の風景が思い浮かび、様々な思いが募っていることと思います。

思えば、皆さんの中学校生活は、コロナ禍から始まりました。さらに最後の2年間はプレハブ校舎での学校生活になりました。それでも皆さんは明るくたくましく前を向いて頑張りました。修学旅行を心の底から楽しんでいたあの笑顔、授業中の真剣なまなざし、「さすが3年生」と言わせた学校祭、送別集会では後輩たちのパフォーマンスに笑い、2年生の合唱に涙する姿、そして、先生方と仲良く学校生活を送る姿、すべてが忘れられません。きっと素敵な3年間を送ったのでしょう。

先日の送別集会で、2年生の感謝の思いが込められ、3年生の心を震わせた素晴らしい合唱曲「正解」に、こんな歌詞があります。「ああ 答えがある問いばかりを 教わってきたよ だけど明日(あす)からは 僕だけの正解をいざさがしにゆくんだ また逢う日まで」皆さんはこれからの人生で、自分だけの正解を求めて生きていきます。発寒中学校の生徒だからこそ忘れてほしくない生き方を2つお話します。

発寒中学校の教育で大事にしていることの1つに、「D&I (ダイバーシティ&インクルージョン)」という言葉があります。「多様性」を「受け入れて活かす」、要するに「みんなを認め合い、みんなが過ごしやすい学校を、みんなで作ろう」という意味です。これから生きていく新しい世界で、他人の痛みが分かる、困っている人に寄り添う、他者を受け入れる、違う文化を受け入れる、そんな生き方をしてください。世の中に目を向ければ、依然として差別が存在します。世界では戦争、貧困、災害で困っている人がたくさんいます。多様性が認められる、差別のない、誰もが安心して暮らせる世の中を、皆さんが作り上げてください。

2つ目は、3年間で何度も耳にした「98きまり」の精神です。1998年、当時の発寒中学校の生徒会役員が中心となって、学校生活をより良くするための方針を、生徒自身が決めました。27年前は、生徒が自ら自分たちのきまりを決めることは、画期的で最先端の取組でした。その精神が今でも引き継がれています。皆さんがこれから生きていく新しい世界には、おかしいルールや慣習があるかもしれません。おかしいと思っても、実際に変えようとする人はあまりいません。だから変わらない、なのに文句は言う。そうではなく、世の中をよりよく変えていくために、自分で考え、行動する人になってください。世の中ではこのような力を「エージェンシー」と言います。発寒中学校を卒業する皆さんには、世の中を生き抜くために大事な「多様性」「エージェンシー」という2つのキーワードの基礎があるはずです。

終わりにになりましたが、ご来賓の皆様、本日のご参列に心から感謝申し上げます。保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。義務教育が終わる今こそ、その喜びは格別のことと思います。保護者の皆様や地域の方々は、いつも発寒中学校を見守ってくださいました。そして、励ましの言葉や応援の言葉をかけていただいたことに感謝申し上げます。その度に我々は気持ちを奮い立たせて前を向くことができました。これからも発寒中学校を応援していただけると幸いです。

皆さん、いよいよお別れです。先ほどの「正解」の最後にはこんな歌詞があります。「次の空欄に当てはまる言葉を書き入れなさい　ここでの最後の問い　『君のいない　明日（あす）からの日々を　僕は／私はきっと……』　制限時間は　あなたのこれからの人生　解答用紙は　あなたのこれからの人生　答え合わせの時に私はもういない　だから　採点基準は　あなたのこれからの人生」これから生きていく中で、「この生き方でよかったのか？」と自分の人生を振り返ったそのとき、思い出のプレハブ校舎はもうありません。苦しいときも楽しいときも一緒だった、答え合わせをする友は、もうそばにはいないかもしれません。でも、皆さんが自分自身で決めた生き方なら、それはすべて正解です。

発寒中学校は、いつまでも皆さんを見守っています。発寒中学校の卒業生であることを誇りに、これからの人生を明るく、優しく、たくましく、そして、しなやかに生きることを願って式辞といたします。



祝　辞

P T A 会 長 ○ ○ ○ ○

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。晴れて卒業の日を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。皆さん、3年間という時間はあっという間に過ぎたのではないのでしょうか。授業やテスト、学校行事、部活動、友人関係など、さまざまな場面で努力し、成長してきたことでしょう。時には思うようにいかず、壁にぶつかったこともあったかもしれません。しかし、そうした困難を経験したことこそが、皆さんの力となり、今日の姿につながっています。その努力と頑張りに、心から拍手を送ります。

この3年間の中で、修学旅行やスポーツ大会、学校祭、合唱交流会など多くの思い出ができたことでしょう。仲間と協力し、目標に向かって努力した経験は、これからの人生において大きな財産となるはずです。また、部活動を通じて努力することの大切さや仲間と支え合うことの尊さを学んだ人もいるでしょう。一方で、それぞれの事情でこれらの活動に参加できなかった人もいるかもしれません。しかし、日々の授業や友人との何気ない会話、先生方との関わりの中で学んだことすべてが、皆さんの成長につながっています。

これから皆さんは、それぞれの新しい道を歩んでいきます。思い通りにいかないこともあるかもしれませんが、発寒中学校で培った「努力すること」「仲間を大切にすること」「挑戦することの大切さ」を忘れず、自分を信じて進んでください。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様を支え、励ましながら歩まれた3年間、本当にお疲れさまでした。P T A 活動にもご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。これからも温かく見守りながら、お子様の成長を支えていただければと思います。

そして先生方、これまで子どもたち一人一人に寄り添い、温かくご指導いただきましたこと、心より感謝申し上げます。先生方の励ましやご指導が、子どもたちにとって大きな力となったことでしょう。

最後に、発寒中学校の益々のご発展と、卒業生の皆さんの輝かしい未来を祈念し、私の祝辞といたします。

卒業生の皆さん、本当におめでとうございます。

送 辞

2年〇組 〇 〇 〇 〇

今日は、まるで3年生とのお別れを惜しむように、なごり雪が降り続いています。

旧校舎、そして仮校舎、どちらの歴史も支えてくださった第57期の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心からお祝い申し上げます。

今、先輩と過ごした日々を振り返ると、その背中とはとても頼もしく、発寒中学校の生徒として、在るべき姿を示してくださっていた、と感じます。

学校祭では、準備の段階から、質の高い話し合いや練習をなさっていました。体育館での練習時の入れ替わりで見えた、ほんの少しの時間でも、発想力や行動力にとっても驚かされたことを覚えています。表には現れない、裏で支える作業を、スピーディーにこなす姿。私達と同じ準備時間で制作したとは思えないほどの素晴らしい垂れ幕。どれもが私達のお手本となるものでした。

委員会活動、部活動でも、積極的に意見交流をしたり、あきらめずに最後まで、高みを目指していこうとしたりする、意識の高さにあふれる3年生。思いやりの心で、私達のことを、よい方向へ引っ張ってくださった3年生。

今、こうして様々な活動ができるのは、皆さんのおかげです。

皆さんは卒業し、4月から、それぞれの道に歩いていきます。その中で、辛いことも立ちのびると思います。そんなときは、ぜひ、この発寒中学校での日々を思い出してください。今ここにいる友達、先生方、保護者の方々、皆さんと一緒に経験してきたことが、力になってくださると、信じています。

私達在校生も、これまで皆さんから教わった、最高学年としての下級生への思いやりや、お手本となるような日常生活を受け継ぎ、発寒中学校の未来へと繋げていけるよう、努力していきます。

3年生の皆さん、皆さんのご健康とご活躍を、在校生一同、心からお祈りしています。今まで、本当にありがとうございました。



答 辞

3年〇組 〇 〇 〇 〇

見え隠れする春の兆しに、新たな季節を感じるころとなりました。この良き日に、私達第57期卒業生は旅立ちの日を迎えました。本日は私達のためにこのような素晴らしい式を開いてくださり、先生方をはじめ、来賓の皆様、並びに保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

多くの期待と小さな不安を胸に旧校舎の門をくぐったあの日から、3年。

短いようで、多くの成長を得られた3年でした。

3年前、まだコロナ禍の影響が強く残る中、私達は中学校入学の年を迎えました。

入学式、迎えてくださった先輩の堂々とした姿に圧倒され、私もこんな中学生になりたいと憧れを抱いたことを今でも覚えています。そこから始まった学校生活や行事は初めてのことばかりで先輩たちのようにうまくできないことも多くありました。そんな中でも、初めての学校祭では放送でも伝わりやすいステージ発表を模索したり、校舎移転に合わせた3月まで楽しめる装飾を校舎中に工夫して施したりしました。一生懸命だからこそその失敗や拙さもありましたが、全力で取り組むことの大切さを身につけた1年でした。

2年前は、発寒中学校にとって仮校舎移転という大きな変化の年でした。

旧校舎が55年の歴史に幕を閉じ、新校舎の建設が始まりました。コロナ対策は終わりましたが、仮校舎での生活はグラウンドの使える部分が狭くなったり、廊下で部活動のトレーニングができなくなったりと、思うように活動が行えないもどかしさもありました。しかし、限られた活動の時間の中でどんな事ができるかを自ら考え提案したり、自宅で自主トレーニングをしたりすることで、それを乗り越えることができました。また、大きな環境の変化によって行事の形式も大きく変わり、生徒会活動にも大きな変化がありました。学校祭は、全クラス15分のステージ発表という形が取られ、送別集会は4年ぶりに集会形式で行われました。私達にとって経験したことがない行事の準備は、本番を想像しづらく大変でしたが、自分たちで「初めて」を作り上げる経験をすることができました。

1年前、私達のこれからにとってとても大きな1年が始まりました。

1学期は、新たなクラスの仲間と行った修学旅行がありました。自主研修では迷子になるなどハプニングも多々ありましたが、鎌倉の歴史を学び、東京の文化に触れることができました。また、学年レクやホテルでの自由時間を通してよりクラスや学年の仲が深まったと思います。そして、この1年は進路選択の時期でもありました。特に、3学期に入ってから受験を強く意識する毎日が続きました。周りの仲間たちの合格発表を聞いたときに、焦りが募っていった人も、多くいたことでしょう。しかし、そんなとき助けになってくれたのもまた、周りの仲間たちでした。ときには励まし合い、ライバル同士競い合い。そんな存在がいたからこそ、このつらい時期を乗り越えられたのだと思います。

そして迎えた今日、私達は3年間学んだこの発寒中学校を、旅立ちます。

これまでの3年間は、「初めて」や「変化」の連続だったと言えるかも知れません。そんな中でも変わりゆく毎日を楽しく過ごし、たくさんの大切な思い出を作ることができたのは、周りの方々の支えがあったからでした。この場をお借りして、その感謝を伝えたいと思います。まず、温かく愛をもって接して下さった先生方。先生方のお陰で3年間を楽しく過ごし、一人の人間としても大きく成長することができました。ありがとうございました。次に、委員会や部活動で私達とともに活動してくれた後輩の皆さん。皆さんがいてくれたから、先輩らしくいよう、もっと頑張ろうと思うことができました。短い時間でしたが、皆さんとたくさんの活動ができて本当に楽しかったです。ありがとうございました。これからは新校舎で、新しい発寒中学校の歴史を、紡いでいってください。そして15年間私達を支え続けてくれた家族。家に帰れば安心できる居場所があることに、何度も何度も助けられてきました。自分の時間を削ってまで部活や塾、習い事の送迎をしてくれたり、私達の悩みを聞いてくれたりしました。ときにはそっとしておいてくれたことのありがたさに、最近気がついたように思います。これからはもらった愛情を少しでも返せるよう、頑張ります。これからもよろしくお願いします。最後に、3年間をともにした仲間たち。迷ったり悩んだりすることがあっても、仲間が290人もいると思ったら、無敵のように思えました。たくさんいるからこそその難しさもありましたが、それが私達の強みでもあったように思います。たくさんの大切な思い出と、挑戦する勇気をくれて、本当にありがとうございました。

私達は今日、新たなそれぞれの道へ、歩み始めます。ときには困難にぶつかり、立ち止まることもあるでしょう。そんなときは、この場所に立ち戻り、この3年間の日々を、振り返ってみようと思います。きっとこの場所には、自分らしさの原点があるはずなのです。

最後になりましたが、改めまして本日はこのような素晴らしい式を開いてくださり、本当に、ありがとうございました。そして、3年間支えて下さったすべての方々に、感謝を伝えたいと思います。本当に、ありがとうございました。

